

## 2017年度 プロジェクト研究所業績報告書（中間報告）

プロジェクト名	新たな生活科学研究プロジェクト
研究所名	生活科学研究所(所長 現代生活学科 野津 喬 准教授)
設置開始	2015. 4. 1
設置終了	2019. 3. 31 (延長)

### ■研究の進捗状況（研究員の活動実績含む）

#### 【都市型スローライフ・プロジェクト】

本プロジェクトにおいては、日野の「地域資源」を活用して、まちをスロー（＝ゆっくり、じっくり、多様に）楽しむ場づくりに関する研究活動をすすめている。2016年度は、「地域資源の活用研究」をテーマに、「3世代をつなぎ、住民主体の安心・安全の暮らしやすい街づくり」をめざし、各研究員の専門領域を活かして、市民・学生・教員協働の活動をおこなった。引き続き2017年度は、「地域資源を活かした活動の継続的発展の探求」をテーマに、各研究員のフィールドで培ってきた学生協働型活動をさらに推進し、持続的な発展へと結ぶ新たな取り組みを展開している。

主な活動は以下の内容：

#### 1) 地域活動（自治会活性化とまちづくり活動）の推進

2016年度においては、住民主体で地域づくりを考え、実行していく「日野市地域懇談会」の活動に、研究員メンバーおよび学生が参画した。具体的には、「大坂上中地区懇談会」及び「二中地区懇談会」の活動に参加。地域ごとに異なる自治会活性化活動の推進に寄与した。

「大坂上中地区」では、地域住民主体の交流活動、障がい者の視点も加味した安全教育など、地域と密着した自治会やPTAの基盤を活かした三世代交流型地域活動を推進した。また、研究員と学生により製作された「大坂上中地区の立体模型図」が紹介され、住民が自分の居住地域の地域特性や地域資源を視覚的に把握し、その活性化を話し合う材料として活用された。

一方、「二中地区」では、地域住民と学生が一緒となってまちあるきを行い、地域の人が自らの地域の良さを発見して、愛着を感じるまちづくり活動に活かしていく「プランニング・プロジェクト」を学生と市民が協働で構想。その成果物として、学生が地域マップの作成を行った。この活動を通じて、住民自身が主体的にまちを楽しむための新しいプログラムが生まれた。

2017年度においては、「大坂上中地区」では、地域の文化祭、小学校PTAまつり等にボランティアとして学生参加を継続しているほか、新たに「南平地区」において、新川辺地区センターを拠点とする放課後の子どもの居場所づくり活動の支援に着手。生活文化学科学生が、日頃の学修を活かして子ども支援にあたり、新たなコミュニティの場づくりを行っている。

また、「二中地区」においては、前年度作成した「プランニングマップ」をもとにしたまちづくり活動（「プランニング!!!」＝まちをぶらぶら歩きながら、まちづくりのプランを考えるという取り組み）を、市民と一緒に展開している。2018年1月には、実践女子大学プロデュースによるプランニングの企画を、市民向けに実施した（「広報ひの12月15日号」に告知掲載）。内容は、2017年8月に同じ学生たちが「プランニングマップ」を活用して行った「高大連携によるまちづくり提案」のプログラムの成果を市民にフィードバックし、高校生に

よるまちづくりの視点を、市民に還元しながらまちを歩くという趣向で行った。当日は、約20名の市民の参加を得て大変好評であった。この取り組みの様子は、「大學新聞(第152号)」(2018年2月12日付)および「大学ジャーナルオンライン」(2018年2月16日付)で紹介された。

さらに、2018年3月6日～12日の期間、本年度行われた「プランニング!!!」の取り組みを、広く市民に成果紹介するための写真展を、「イオンモール多摩平の森店」で開催した。自分たちが住んでいるまちの良さに気づき、関心を持つ仲間を増やし、地域のつながりを作り出していくことがねらいである。市民と学生と行政が一体となって、展示、運営方法などを話し合い、手作りの展示を行った。この展示については、「広報ひの3月1日号」に告知掲載された。展示初日には、J:COMから取材を受け、学生が市民とともに取材に応じて、その様子が同日夜のJ:COM デイリーニュースで紹介された。

こうした市民・学生・行政の協働活動は、市民主導による新たなまちづくり(地域のよさをじっくり、ゆっくり、多様に楽しむ暮らしづくり=スローライフ)を推進し、これからの地域づくりのモデル的事例として、市政からも注目されている。

一方、新しいタイプの地区センターとして「日野市立カワセミハウス」が開館されたことに伴い(2017年4月)、新たな域学連携の活動の展開に着手している。開館前の準備会の段階から、カワセミハウス活用について考える市民協議会に学生が参加して信頼関係を築き、4月のオープニングフェスタの開催を成功裏に収めた。さらに、学生が企画案をつくり、地域資源である「豊田ビール」を活かした「オクトーバーフェスト」を協議会メンバーに提案。オクトーバーフェスト実行委員会が組織された。このフェストは、本学学生が実行委員長となって、実行に向けての段取りを市民・役所と一体となってすすめて、2017年11月4日に開催した。当日は200名以上の市民が会場を訪れ、交流を楽しむと同時に、近隣住民や市民団体同士の新たなつながりを作り出し、よりよい地域社会づくりに向けての動きを生んだ。

また、同じくカワセミハウスでは、多世代交流を促進する持続可能なコミュニティ・サロンづくりもすすめている。既存の高齢者サロンや子どもたちとの関係も築きながら、地域資源を活かした学生企画のコミュニティ・サロンの運営を始動するなど、スローライフを展開する持続可能なコミュニティの場づくりを探求し、汎用性あるものにしていくための取り組みをすすめている。コンテナなどを用いて空き地を活用するまちづくりなどで有名な佐賀市の先進事例の視察および関係する佐賀大学との交流活動なども行い、今後の新たなコミュニティの場づくりへの参考とした。

さらに、当プロジェクトにおいて作成を行ってきた「日野市立体地図」をカワセミハウスに設置する話も進んでおり、今後、日野市全体の自然環境や生活環境の話し合いや、市民のまちづくり活動および子どもたちの教育活動などに広く役立てられていく見通しである。

## 2) 都市と地方をつなぐ活動の推進

当プロジェクトのもう一つの研究教育活動として、人口減少・超高齢化が急速に進む中山間地域の集落と都市(日野市)を結ぶ活動の可能性を探っている。具体的には、新潟県十日町市松之山布川地区に活動拠点を置き、学生が現地に入って人と自然の豊かさを経験し、都市生活と自然生活を結ぶ価値を考え、都市型スローライフ・プロジェクトの活動に活かすことを考えている。2016年度は、全部で6回の現地活動を行い、自然共生型暮らしの一連の流れを知り、また、超高齢化がすすむ地域社会のコミュニティ維持活動として、地域住民のつながりを途絶えさせないための地域の祭りに参画をして、学生の協働力を高めるとともに、今後の研究・教育活動拠点としての関係づくりを固めた。

2017 年度においても計 6 回、継続的に農業ボランティア・集落維持活動に参加すると同時に、当地の人々の暮らしの思いを、土地の人々に尋ねるインタビュー調査を実施し、今後の域学連携・農山村地域と都市とを結ぶ持続可能な関係性についての論考を深めた。1)において述べたカワセミハウスの「オクトーバーフェスト」においては、松之山の米作り、里山の恵みと暮らしとの関わり、高齢化・人口減少がすすむ地方の現状などについてパネル紹介した。この取り組みをすすめる中で、豊田ビールの現在の製造元と十日町市松之山に古い関係があったことを発見した。今後、高齢化が急スピードですすむ松之山布川地区と豊田地区とをつなぎ、地域共生型・自然共生型のライフスタイル提案につなげればと考えている。

#### 【リサ・エネ カフェプロジェクト】

カフェ事業の廃棄物を発酵させてバイオガス(メタン)を製造することを目的とする。メタンは天然ガスや都市ガスの主成分であり、熱利用、燃料、発電が可能である。平成 28 年度はバイオガス製造並びにガス中のメタンの定量を目指し、平成 27 年度に組み立てた実験装置を改良し、K 県 Y 市下水道センターから提供された活性汚泥を使用し、グルコースを供試材として 35℃の発酵実験を行った。また、現代生活学科の演習科目において履修学生にエコキャンパスマップの作成を勧め、完成することができた。

平成 29 年度は、当プロジェクトの内容も含めたエネルギー環境教育について、現代生活学科における実践教育として振り返り、学会発表 2 件並びに論文投稿 2 件を行った。さらに、バイオガスへの発酵後の残渣を効率的な燃料(バイオエタノール、バイオディーゼル燃料)に転換するための水熱反応について検討を始めた。反応装置とその制御機器を購入し、水熱反応を実践するための動作確認や必要部品の確認などの実験準備を行っている。

#### 【健康と教育プロジェクト】

日野ヘルスプロモーションでは、「日野の健康食」の普及啓発の取組を進めた。「日野の健康食」は、日野市健康課、日野市都市農業振興課、及び JA 東京みなみ、日野市女性農業者の会「みちくさ会」、日野市民を委員とする検討会で策定した。関係機関(者)の協働のもと、日常の健康な食生活に必要な様々な情報を総合的に提供する媒体として「日野の健康食」レシピ集を作成した。

JA 東京みなみが設置する日野農産物直売所で、利用者へのアンケート調査を行ったところ、野菜料理のレシピを希望する意見が多かった。国民が「食」に関する情報として、健康に役立つ・調理に役立つ(献立・料理・レシピ)情報を望んでおり、その情報は、新聞・雑誌・本等から得ている(メディアに次ぐ)という回答があった。

①「日野の健康食」レシピの創作と試作を行った。みちくさ会を対象に栄養講習会を開催し、健康に役立つ適切な栄養素摂取につながるレシピの考案と試作を進めた。

②日野市食育推進会議と連携して、学生の食生活調査をおこなった。この結果は、第 3 次日野市食育推進計画に反映された。健康寿命の延伸のためには若い世代(学生の世代)からの朝食の欠食率の低下、野菜の摂取量の増加の必要性があることから、今後、学生の朝食欠食率を低下させるとともに、野菜の摂取量増加を目指したい。さらに、高齢者のための低栄養の防止法、嚥下困難者に関する食事について研究を進めたい。

④教育支援として、中学校授業時における支援をおこなった。特に教科の中では家庭科授業における支援として、教職課程履修者を中心に実施した。

⑤地域中学校、教育委員会との連携のもと、延べ人数 50 名の学生が、中学校のマナー教室時の学校給食の配膳ならびに食事時のマナー指導をおこなった。

⑤地域における子どものための食育支援では、学生自らが、地域内の子ども関連施設において企画、運営、活動するとともに、地域の食育事業において、協力・支援をおこなった。

## ■現在までの達成度

### 【都市型スローライフ・プロジェクト】

1年目においては「地域資源とその活用方法に関する基本調査」として、日野市の地域資源の発掘を行うとともに、「空き家活用」「子どものよりよい成長」「地域の自治会活動」「農的資源の活用」などを問題意識として現状把握を行った。また、各種フィールドワークを行い、学生の課題発見力、協働力を高める活動を行った。2年目は、「地域資源の活用研究」をテーマに、日野市の地域資源を活用するための具体的な活動に取り組み、新たなライフスタイル創造とその受け皿となる社会構想を考えることができた。

3年目における本年度においては、「地域資源を活かした活動の継続的発展の探求」をテーマに、これまで培ってきた関係性を土台に、よりよい暮らしづくり、地域づくりのための実践的な活動を精力的に行った。「二中地区ブランニング」への継続参加は、市民による地域の魅力発見を手助けしており、よりよいまちづくりの「主体者」となる人々を広げていこうという市民の動きを生み出している。また「カワセミハウス」においては、「オクトーバーフェスト」の実施を通じて、地域資源を活かし、それをもとに人々がつながりあい、地域への愛着を持っていくための活動の在り方を見出すことができています。今年度の実績を受けて、「オクトーバーフェスト」は、次年度も年間のメイン・イベントとして行われることがカワセミハウス協議会において決まっており、今後の展開の中で、さらに、地域資源・自然資源を豊かな地域づくりにつないでいくための取り組みがすすめられることになっている。さらに、「カワセミハウス」においては、学生の関わりを通じて、新たなコミュニティ・サロンづくりの足場ができるなど、大変良好な関係を築くことができています。こうした諸活動を通して、関係各位との関係づくりがすすみ、日野市との地域連携の協力関係を深めることができた。学生も、より主体的に地域活動の中に入り、協働力、構想力、実践力を高める活動に結ぶことができた。

### 【リサ・エネ カフェプロジェクト】

活性汚泥を使用し、グルコースを供試材として35℃の連続発酵実験を行った。その結果、24時間後には生成ガスの80%が得られ、さらに24時間経過後には残りのガスが得られ、生成ガス総量は6150 mLとなった。そのガスをガスクロマトグラフ装置で定量したところ、98%がメタンであることが判明した。現代生活学科の演習科目において履修学生の作成した内容を基にエコキャンパスマップを完成することができた。当プロジェクトの内容も含めたエネルギー環境教育を深めるため、現代生活学科における実践教育として振り返り、学会発表2件並びに論文投稿2件を行った。さらに、バイオガスへの発酵後の残渣を効率的な燃料（バイオエタノール、バイオディーゼル燃料）に転換するための水熱反応について検討を始めた。反応装置とその制御機器を購入し、水熱反応を実践するための動作確認や必要部品の確認などの実験準備を行っている。

### 【健康と教育プロジェクト】

昨年は「日野の健康食」の概念を策定し、本年はその普及啓発のための総合的な情報誌「毎日の健康食生活 RECIPE」を作成し、目標を達成した。本誌には、みちくさ会の「旬野菜のおすすめ料理」33品のレシピ、及び、ゼミ学生の季節ごとの「日野の健康食」6食のレシピの他、日野市都市農業振興課の農業振興策とJA東京みなみの野菜直売所情報、及び、公衆衛生学研究室から健康な食生活

のための種々の情報（「日野の健康食」、健康日本 21（第 2 次）：栄養・食生活、厚生労働省「日本人の長寿を支える健康な食事」、健康の課題、食の課題、等）を掲載した。今後、この情報誌を用いて関係機関がそれぞれ普及啓発の取組を進める。

### ■次年度以降の研究（見込み）

#### 【都市型スローライフ・プロジェクト】

これまでの活動を通じて生まれた「ひのスローライフ」の取り組みを域学連携でさらに推進し、新しい地域コミュニティ形成や地域福祉の研究を踏まえ、日野市の豊かな暮らしづくり、豊かなコミュニティづくりに貢献したいと考えている。

具体的には、大坂上中地区、二中地区およびカワセミハウスを拠点にすでに展開している地域連携活動を継続的・発展的に推進する。また、地域の様々な世代、様々なステークホルダーが緩やかにつながりあう、新たなコミュニティ・スペースづくりを具体的な形にしていく（カワセミハウスを拠点に想定）。これは、これからの自立型社会づくりに関する研究をもとに、学生主体・市民協働で持続可能な形にしていく計画である。また、豊田ビールや黒川清流公園などの地域資源を活かした活動展開や、今後の持続可能な社会づくりに不可欠な地域共生・自然共生を促進するまちづくりツールの開発を行う。さらに、カワセミハウスでの「オクトーバーフェスト」実施をきっかけとして、都市と農山村を結ぶ交流活動から豊かな社会づくりに結び付けていく計画も、学生主体で検討する。一方、2017 年度に着手した放課後の子どもの居場所づくりのテーマは、現代に喫緊の課題であり、地域で子どもを育てる地域福祉の新たなモデル展開をはかりたいと考えている。以上のような活動展開を通して、学科をつないだ新たな生活科学研究の姿を探求する。

#### 【リサ・エネ カフェプロジェクト】

カフェ事業の廃棄物を発酵させてバイオガス（メタン）を製造することを目的としているが、バイオガス製造に留まらず広義での環境エネルギー領域の研究を深めたい。具体的には、食品廃棄物からバイオガスの製造に加えて、バイオガス発酵後の残渣を効率的な燃料（バイオエタノール、バイオディーゼル燃料）に転換するための水熱反応を検討している。さらに、学生の教育にも還元するために、学生によるエコキャンスマップ、環境報告書などの作成などエネルギー環境領域の極めて根本的な活動を広めることを目的としたい。しかしながら、一般的なエネルギー環境領域の大学の研究室に比較して、ようやく基礎的な機器が揃いつつある現状である。

国連及び日本政府が主導している SDGs（持続可能な開発目標）の内 2 つの目標（No. 7、13）に深く関連している自然エネルギー100%を標榜している企業（リコー、ユニリーバなど）が拡がりつつある。そのような現状では、大学のキャンパスといえどもバイオマス等の自然エネルギーの教育研究を推進すべきであると考えられる（千葉商科大学が先鞭をつけており、大学間でも広まりつつある）。当プロジェクトにおいてもバイオマスの効率的転換を検討することにより、本学の生活科学の進展に寄与するとともにエネルギー環境領域における教育研究に還元することができる。さらに、日野市等の地域連携につながる事業への発展を目標としたい。

#### 【健康と教育プロジェクト】

本学周辺地域において、地域自治体、農家、学校、商工会などと連携し、これまでの健康と教育に関する研究をさらに発展させる。具体的には、地域における健康の実態を学生が新たにアンケート調

査をおこない、解析をする。その調査結果より課題を発見し、その解決策をさぐる。食に関しては、日野市内ならびに学内における野菜摂取量増加の取組を行う。健康寿命延伸のための取組として、地域企業と連携して低栄養、誤嚥防止のための高齢者のためのレシピ開発を行う。特に、このレシピに関しては高齢者に提供し、意見の聴取を行い、課題等を検討しながらさらに改良を加える。教育の面においては、食と健康に関する昔話を掘り起こして、子どもたちに提示できる教材の開発を行う。また、これらの教材を活用して子どもたちの教育支援を行う。子供のための食に関する活動については、地域ならびに恵那地域においてもひろく認知されてきたことから継続した活動を行う。

## ■研究活動における成果

### (1) 研究成果(雑誌、学会発表、図書等)

常磐祭(日野)においてプロジェクト研究について発表を行ったほか、以下の成果を上げている。

#### 【都市型スローライフ・プロジェクト】

- ・市民と学生協働による地域マップ「二中地区プランニング・プロジェクト」の作成・配布・市民活動での活用
- ・日野市の地形を捉え、「まちづくり」を一緒に考える創発型コミュニケーション・ツールとして、大坂上中地区立体地図、日野市立体地図を製作(日野市立体地図は、日野市立カワセミハウスにて展示へ)
- ・地域資源活用リーフレット「J-HOME 豊田ビール号」の企画・編集・制作、日野市など関係者への配布
- ・本プロジェクトの地域活動に基づく論考(須賀由紀子、地域活性と持続可能な大学と地域の連携～都市と農村をつなぐ活動において～、実践女子大学生活科学部紀要第 55 号、2018)
- ・学会発表:酒巻由佳・須賀由紀子、地域コミュニティにおける「域学連携」の可能性、地域活性学会第 9 回研究大会、2018

※2017 年 6 月発行の「日野市新しいコミュニティづくり白書」において、当プロジェクトにて学生参与型で協力してきた学生と市民の協働活動内容が盛り込まれ、実践女子大学の地域づくりへの貢献が明記された。

#### ※メディア掲載実績

- ・大学新聞社「大學新聞第 152 号」(2018 年 2 月 10 日)  
「まちあるきツアーを実施 実践女子大学」
- ・大学ジャーナルオンライン(2018 年 2 月 16 日)  
「実践女子大学の学生たちが市民参加の街歩きイベント開催」
- ・J:COM デイリーニュース(2018 年 3 月 13 日のニュース)

#### 【リサ・エネ カフェプロジェクト】

- 菅野元行、実践女子大学日野キャンパス エコキャンパスマップ、(2017)
- 菅野元行、実践女子大学生活科学部現代生活学科 授業履修型資格のご紹介(環境・エネルギー領域)、(2017)
- 菅野元行、女子大学の環境情報系学科におけるエネルギー環境教育、日本エネルギー環境教育学会第 12 回全国大会論文集、p.88-89(2017)
- 菅野元行、女子大学環境情報系学科における環境・エネルギー入門科目の教育実践、日本環境教育学会第 28 回年次大会研究発表要旨集、p.111(2017)
- 菅野元行、現代生活学科の環境科学入門科目における教育に関する検討、実践女子大学生活科学部紀要、55 号、63-69(2018)

菅野元行、現代生活学科のエネルギー環境科目における実践的教育、実践女子大学生生活科学部紀要、55号、75-81(2018)

#### 【健康と教育プロジェクト】

「日野の健康食」普及啓発のための総合的な情報誌「毎日の健康食生活 RECIPE」を作成した。

白尾美佳：講演「食育のすすめ」日野市立南平小学校学校保健委員会

白尾美佳：東日本大震災被災地域の避難所における食生活調査、第4回日本食育学会発表

白尾美佳：「日本型の味覚教育をどう普及させていくか」日本食育学会 シンポジウム 2016 明治大学

白尾美佳：講演「知っておきたいシニア世代の栄養」、日野市中央公民館

白尾美佳：「文部科学省 平成 28 年度スーパー食育スクール事業ならびに福島県学校における食育推進プロジェクト」食育講演会「学校給食が教育に果たす役割」福島県三春町

白尾美佳：大人のための食育講座「食の色彩の不思議」日野市七つ塚ファーマーズセンター

#### (2)学生・生徒の教育及び支援に関する還元

##### 【都市型スローライフ・プロジェクト】

日野市地域懇談会に学生が参加して、市民の話し合いやグループワークに加わり、アイデア出しに参画したほか、発表も精力的に行った。市民の方と一緒にまちあるきを行い、地域資源の発見・活用をともに考え、実践的な学びができた。みなさんの意見を聞きながらのブランニングマップの作成・実地活用などの活動を通して、市民の方々とふれあい、異世代間のコミュニケーションを深め、生活者の視点、これからの暮らしと社会に必要な視点を得た。

2017 年4月にオープンした日野市立カワセミハウスでは、その活用を考える「カワセミハウス協議会」に学生が参加。市民の方々と一緒に、自然と地域のよさを活かした活動運営のあり方の検討に加わった。その結果、4 月のオープニングフェスタが開催されることになり、地域をつなぐことの大切さを考える機会となった。さらに、「このカワセミハウスをもっと市民がつながりあえる場にしたい」と学生発案で、地域資源の「豊田ビール」を活かした「オクトーバーフェスト」の開催が実現した。「豊田ビール」への着目は、学生発案であり、地域資源から地域をどうつなぐかを実践的に経験する場となっている。新規プロジェクトを立ち上げることで、構想力・実践力・コミュニケーション力をつける機会となっている。

また、本プロジェクトによる地域活動からは、小学校のボランティア活動への学生参加が促されたり、立体地図の市民活動への活用により、大学での学びと地域の暮らしが直接つながることも実感されるなど、学生の日ごろの学びと現場がつながり、問題意識の醸成や実践力を培う効果があった。

立体地図製作を担当した生活環境学科の学生にとっては、専門の学修を活かし、作品の完成にまで持っていく息の長い仕事をやり遂げ、それが社会に実際に活かされるということで、社会とつながる学びを実感することができた。

##### 【リサ・エネ カフェプロジェクト】

現代生活学科 1 年生科目「フィールドリサーチ」、2 年生科目「プロジェクト演習 a」、3 年生科目「ゼミナール」にて当プロジェクトの概要を説明した。その結果、平成 29 年度は「フィールドリサーチ」で 3 名、2 年生科目「プロジェクト演習 a」で 1 名の学生がバイオマスのエネルギー利用について検討を行った。その内 1 年生 2 名がバイオガス化について高い関心を示して調査研究を進めており、当プロジェクトの内容を指導することができた。平成 29 年度の 1 年生が 87 名であることを考えると割合は低いものの、学科ブログの記事掲載やエコキャンパスマップの発行などエネルギー環境領域の教育・研究内容の発信が地道に浸透

し始めたことによるものと考えられる。一方、本予算でガスクロマトグラフ装置を購入することができたことから、ゼミ生にも測定方法を指導し、測定実習を行うことができた。継続して学生の教育にも還元できるよう尽力したいが、研究室(3 館)内にガラス器具の洗浄や反応装置の水冷といった極めて基礎的な作業に必要な水道や流し台が無いため、実験を希望する学生の教育に貢献するには最低限の実験環境(水道流し程度)が必要である。

#### 【健康と教育プロジェクト】

本研究の成果を授業などにおいて学生の教育に反映している。特に、地域の健康教育や、日野市食育推進計画の結果等については若い世代の食と健康における課題を学生が認識し、課題を解決しようとするよい機会となっている。さらに、学生が、小中学校の食育ならびに教育支援として、学校給食時の児童生徒の指導をおこなったことにより、学生のコミュニケーション能力、学習意欲の向上につながった。また、地域農業支援への参加は、東京都ならびに日野市に栄養士として就職した本学卒業生も参加していることから、卒業生との交流にもつながり、学生の専門職に対する職業観への醸成、学習意欲にもつながっている。恵那市における活動においては、自ら恵那の土地に行き、地域の方々と交流する中で、いかに学祖が地元で尊敬されているかを認識できる良い機会となっており、学生自らも学祖への意識が変化し、実践女子大学に入学したことに誇りと、伝統を認識することができている。